

サンゴ類の実行可能な環境保全措置について

令和3年8月

沖縄防衛局

1. 幼サンゴの加入状況について

第30回環境監視等委員会(令和3年2月)にて、事後調査として事業実施区域周辺で実施している着床具を用いた「幼サンゴの加入状況調査」(図1)について、令和元年度調査結果までを報告し、「大浦湾周辺での着床率は低い傾向にあり、現時点では、当該海域へ移植するための幼サンゴの種苗確保として、本手法によって実行できる可能性は低い」と判断していた。

令和2年度の調査結果について追加整理した結果を表1に示す。令和2年度の着床率は、過年度のうち最も高かった令和元年度よりも減少し、平成30年度と同程度であった。

なお、沖縄島の他海域の事例として、西海岸の事例ではあるが、那覇空港事例(着床具を用いた天然採苗による環境保全措置を実施。)について同様の算定方法による着床率を表2に示す。[第30回環境監視等委員会資料より再掲]

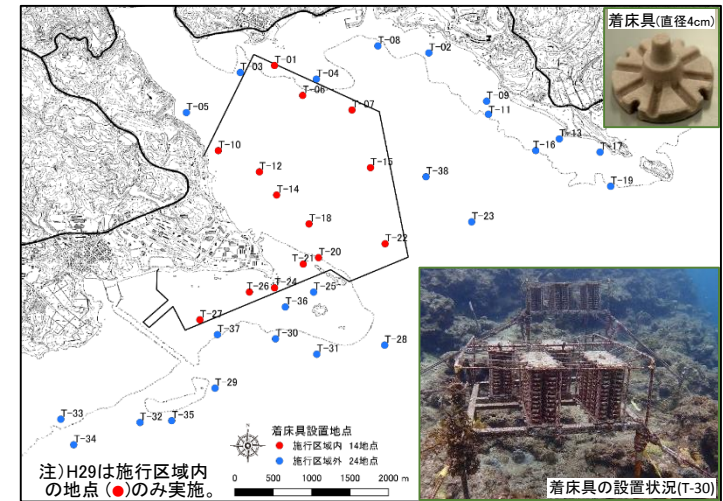


図1 着床具設置場所(事後調査)

表1 幼サンゴ加入状況(大浦湾周辺)の年度別比較

項目	環境保全図書	事後調査			
	平成20年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
着床幼群体数	87	58	996	2,875	832
観察着床具数	20,136	13,080	33,470	34,590	31,709
着床率	0.4	0.4	3.0	8.3	2.6

注1) 着床率の算定方法 : 「着床幼群体数」/「観察着床具数」×100

注2) H29は施行区域内の地点のみ実施

表2 幼サンゴ加入状況(那覇空港事例)の年度別比較

項目	那覇空港事例			
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
着床幼群体数	191	483	507	409
抽出着床具数	1,620	1,620	900	900
着床率	11.8	29.8	56.3	45.4

注1) 着床率の算定方法 : 「着床幼群体数」/「抽出着床具数」×100

注2) 「着床幼群体数」及び「抽出着床具数」は、那覇空港滑走路増設事業環境監視委員会資料(第3回 資料4 p40、第5回 資料5 p39、第7回 資料4 p44、第9回 資料4 p27)を参照

2. サンゴ類の実行可能な環境保全措置について

第30回委員会で示した着床率が低い傾向が、表1のとおり令和2年度の調査結果でも継続していたことから、今後の実行可能な環境保全措置の検討は、第30回委員会で提示したとおり「人工採苗を利用したサンゴ増殖技術(幼サンゴの移植)」を用いる手法にて実施していく方針とする。

3. 今後の「幼サンゴの加入状況調査」の方針について

事後調査として実施している「幼サンゴの加入状況調査」の今後の方針については、本年度までの調査でサンゴ類に係る実行可能な環境保全措置の手法を検討するために必要な情報が得られる見込みであることから、本年度で調査を終了する予定。